

現状の課題と課題解決のための手立て

・平成30年4月の段階において、担任がT1として授業することやALTとのチームティーチングの授業スタイルが定着していなかった。そこで、研究組織として、授業研究部、調査環境部、教材開発部に分け、教職員が一丸となって研究を推進した。教師の英語力や指導技術の向上のため、校内研修を一層充実させた。

具体の取組の内容

① 授業研究部

- ・年間指導計画の見直し
- ・全学年E-timeの設定



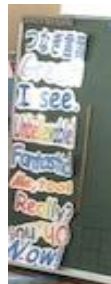
1年生
E-time

- ・Review Talk (FreeTalk)の研究
既習の表現を使って
会話する。
30秒・1分(ペア)



② 調査・環境部

- ・English Room の環境整備
- ・児童の実態調査(意識・学力)と分析
G-TEC junior4技能調査の実施



授業
スタイル
統一

③ 教材開発部

- ・フォニックス、バナナチャンツ(E-timeで使用)、読み聞かせ本等
- ・フラッシュカード作成
- ・英語集会企画

④ 草加市独自の副教材の活用

- ・言語活動の充実
- ・振り返り時間の確保

⑤ 校内研修の充実

- ・月1回の研修会・研究授業

⑥ 教師の英語力の向上

- ・サテライトでの英会話強化
インターネット回線で英会話



成果①

- ・外部試験G-TEC juniorの結果より、6年生児童の技能が次のように把握できた。
79.9ポイント/100ポイント「聞くこと」
81.3ポイント/100ポイント「話すこと」
平均して高い水準となり、聞くこと、話すことにおいて、確実に力をつけてきていることが分かった。
- ・レビュートーク(フリートーク)の積み上げにより、自然に英語が出てくるようになり、お互いに英語で話せることが実感でき、話すことが楽しい、と答える児童が9割を超えている。



成果②

【児童の変容】児童が英語を発話することを楽しんでいて、自分の言葉として話すことができてきた。間違いを恐れず、積極的に発話を楽しんでいる。

【教師の変容】自信を持って、ALTと授業を進めることができています。クラスルームイングリッシュを使用して、ほぼ、オールイングリッシュで授業を進めることができています。

【指導主事から見た変容】校内研修においては、非常に活発な意見が出て、教師が英語を楽しんで指導法を見出している様子が伺えた。多くの質問が飛び交い、大学の先生の指導をスポンジのごとく、吸収しようとする教員集団と変容していた。

今後の課題・方向性

- ・研究の推進により、授業スタイルが確立され、教師同士の情報交換から、PDCAサイクルにより、常に改善策を見出していくことができてきた。
- ・「聞くこと」「話すこと」の活動が充実してきた。「書くこと」における共通の研修が必要であると感じる。
- ・全面実施に向け、教育課程の整備や年間指導計画の見直しが必要である。
- ・小学校外国語・外国語活動のCAN-DOリストと中学校英語との連携をさらに研究していく。
- ・E-timeの計画的な実施と年間計画の位置づけ。
- ・評価の在り方の研究。
- ・教師の英語力が向上できるよう、市教委とも連携して、教員研修も継続して進めていく。